

# のんた

1

山口の土地改良

創刊号

Spring 1999

21世紀の食料・環境・ふるさとを考えよう!

創刊ごあいさつ

巻頭インタビュー①

俳優・**原田大二郎**さん

のんたエッセイ

先人たちの  
大いなる遺産を訪ねる

のんた体験レポート

どきどきハラハラスブスブスブ

雨ニモ負ケズ風ニモ負ケズ

梅雨や台風ニモ負ケズ

平成10年もたわわに実りました

のんた食卓レポート①

私たちの食へものは、  
どこから来ているの？

わたしのアドベンチャー体験日記

in **美川ムーバレー**



山口県地球人会議





## 創刊に寄せて

山口大学農学部教授 日下 達朗

農業・農村地域は食料や木材の生産地だけでなく、水・土・緑・空気等自然環境系の中の要素を構成する貴重な資源が多く存在しており、人間が生きてゆくための環境を育む大切な場となっております。また、農村地域には古くからの伝承文化を保有しており、地域の豊かな環境と併せ人間の心のふるさとを豊ばせてきています。

しかし、国内においては、中山間地域の過疎化とそれに伴う農林業の生産地の荒廃が深刻な問題となっております。また、世界的な視野で見ると、人口の増加とそれを補う食料の生産量のバランスが崩れ、食料不足が心配されています。これは直接的にも間接的にも国内への影響は避けられない大きな問題であり、なお一層の食料自給率の向上に努めなければなりません。

一方、農村地域では一段と道路事情が改善され、農村地域と都市の距離が近くなり混住社会が進行しています。これに伴う都市近郊の豊かな農地の減少と中山間地域の農地の荒廃の両面から農村特有の地域環境機能の低下が心配されています。

このような食料の生産地だけでなく、農業・農村地域の自然環境、ふるさと伝承文化等を維持し、さらには積極的に活用していくことがこれからの社会にとって最も重要な役割であると考えます。

今回創刊された「のんた」が、農業・農村地域が果たしている多面的な役割をより多くの人々へ伝える啓蒙の核となることを期待しております。



## 美しい地球

中原中也記念館館長 福田 百合子

美しい地球は、私たちが自分たちの手で守らなければならないと思います。今、改めて身近な所から見直したいものです。

ふるさと論は、実は地球論、宇宙論でもあり、未来への展望にも繋がるのではないのでしょうか。

詩人中原中也は初期短歌の中で、次のように歌いました。防長新聞歌壇に投稿、掲載された作品です。1922年、まだ山口中学校の生徒の時でした。

### 春の日

麥の香の嬉しくなりて麥笛を作りて吹けり一人ゆく路

友とふれんげ田に風そよ吹きて汽車の汽笛の遠く鳴るなる歌の背景に、当時の山口市周辺の雰囲気そのまま広がってゆくようです。幼な心に、大自然を嬉しく受け入れ、しかもそこから人生そのものを感じ取っているようでもあります。

署名に中也と書かずに、わざわざ「智字哉」の文字を当てたのも、宇宙への回帰、宇宙の智を知るものとしての自覚からだったのではないのでしょうか。

後年「帰郷」と題した詩の一節で「これが私の故里だ さやかに風も吹いてみる」と述べる魂の根源が、既に象徴的に表現されているようで、いつも勵まされるのです。この気持を、これから素直に分ち合っていきたいと願っております。

緑の大地、澄みきった水や空気を、私たちの生活の中で育んできた文化と共に、次の世代へ、大事に伝えようではありませんか。



映画やテレビで活躍中の俳優の原田大二郎さんは山口県のご出身です。アクの強い演技で人気の原田さんが役者を志したのは大学生だった20歳の時。26歳でプロとして一食へていけるようになったといえます。

「54歳の今は、米作りでいうと漸くたわわになつてきた稲穂を前に、イモ芋病にかかったところを間引きながらまだまだ色々つぎ込んでいける真の最中ってことかな。20歳で種を蒔いて、26歳で苗代をまき、60歳で稲刈りして収穫。これまでずっとそう考えて、俳優・原田大二郎を大切に育ててきたんだよ」  
そんな原田さんに、ふるさと山口での思い出、そしてこれからの農村について話っていたきました。

## 山口の思い出

■山口県のご出身と伺いましたが…

原田 僕は横浜で生まれて3歳の時に山口県にきたんだけど、八島に2年くらい住んで城南という山村に移り、小学校2年の時に今度は平生町の佐賀という漁村に移ったんだ。高校2年の時に親父が小学校長を定年退職して母方の実家のある光市へ…。だから3歳の時から大学入学のため東京へ出るまでの15年間を山口県に育てられたんだ。

■山口での子どもの頃の思い出というところ

原田 僕はふるさとのことを原稿に書く時、よく白砂青松の海岸線って書くんだけど、その美しい瀬戸内の海岸線の景色。それと一番長い期間を過ごした平生町佐賀の漁村風景かな。こう山がせり出してきている波穏やかな海岸べりで、太陽をたっぷり浴び

て育った日々っていうのが一番の思い出だね。農村の記憶というのはいらないですか？

原田 ありますよ。4歳から7歳くらいまでは城南という山村にいたし、その頃の記憶はほとんど田んぼと結びついてるよ。田んぼに入ってヒルに吸いつかれてその痕が痒いって皆で黄色い声をあげて大騒ぎしたこと。夜中に親父と一緒に竹竿持って田んぼのそばの小川にウナギを捕りに行ったこと。台風で氾濫した小川に一人でコイ釣りに行ったこと。

佐賀に移ってからも、漁村といっても田んぼはあるし、その生活は殆ど変わらなかつたから、そんな農村の思い出はいっぱいあるよ。楽しかったなあ、毎日野山を駆け巡って。

■自然いっぱいの中で成長されたんですね。

原田 そうだね。先日取材のために田舎に帰った時、川岸でふっと太陽を見上げた瞬間に泣いてきちゃった。

それはいつも東京で見ている太陽と違ってんだ。何て言うか、もっと柔らかくて温かな光を投げかけてくれてるんだ。ああこれは山口県だけの特別な太陽なんだ。子どもの頃俺が毎日見たのはこの太陽で、俺はその太陽に再会できたんだって思ってた。俺ね、自然と一緒に育った人とそうじゃない人とでは何となく人としての「余裕」みたいなのが違うよさな気がするんだけど…。

例えば、僕は横浜生まれだけど、山口県に行かずにそのまま都会で育ってたらもつと「艶っぽさ」のない、とんがった人間になつてたんじゃないかな。今の僕の人としての余裕とか人間関係の艶みたいなものは、瀬戸内の太陽と自然が15年間かけて僕の中にきっちり育んでくれたものだと思うんだよ。

## 巻頭インタビュー① Interview the face

# 俳優・原田大二郎さん

田舎では自然と共生できるでしょ。だから自然の法則がこう直接自分の身体の中に入ってきて、自然からたくさんことを学ぶことができるよね。そのせいではないかと思ってるんだけどね。

■でも原田さんが子ども時代の山口と今の山口とは全く変わってると思いますが…

原田 もちろんそうだった意味では山口県もすっかり都会風になっちゃったけど、まだ東京なんかの都会と違って山口には土と共に生活できる環境が残っているから幸せだよ。

■土に触れる機会っていうのはほとんどなくなつてきてますよね。ところで原田さんは土いじりなんかをなさるんですか？

原田 子供の頃は近所の農家や親父が畑なんかを作ってるのを横でちょこちょこお手伝ったこともあったけど、東京に出てきてからはほとんどないね。今は、長野の田舎にある別荘で少しだけ触るくらいかな。

■土いじりと言えば、服の汚れを気にしたり、日本人は何だか土は汚いものだっていう意識が強すぎる気がする。自分は土から生まれてきたものだってことを忘れてるよね。

■そうですね。そして人は土に育まれたものを食べて生きてるってこと。

原田 うん。だから世界っていうのはね、全てリンケージしているし、その大きなリンケージの中で人ってのは生きてるんだよね。人間だけで生きていくわけじゃなくて、そういうことを忘れちゃいけないよね。

## ふるさとに帰って思うこと

■ところでふるさとである山口県にはよくお帰りになるんですか？

原田 うん、時々ね。仕事で帰ることもあれば、遊びやプライベートで帰ってくることもある。僕の母は今も光市に一人で住んでるから。そうそう、最近山口県に帰って気になるといえる休耕田。ちょっと前までは松くい虫の被害がひどくて気になってたけど、今は休耕田がとて目について気になるね。

■休耕田ですか？

原田 そう。特に棚田の上の方、すごく自立つよね。せっかく昔の人が苦勞して作って残してくれた財産なのに、人の手が入らなくなると棚田がそこからとんとん崩れていってしまつてる。もったいないよね。

■そうですね。今、棚田を残そうっていう動きが全国的にはあるんですけど…  
原田 でも現実問題として農村の高齢化は進





んでるし、実際にそこで働いている人たちに  
とっては大変な労働なんだな、棚田って、  
だから例えば水田じゃなくてカキや菜な  
んかを植えて働いてる人があまり手をかけ  
なくても済むようにしていったらどうだろ

うか。休耕田として放置しておくよりも、  
そうやって活用していった方がいいと思っ  
けど。

■人の手が入るってことが大切だよ。  
原田 そうだね。しかし農家の人が大変な

思いをする棚田はさておき、やっぱり休耕  
田は止めてもらいたいと思うよ、僕は。  
田んぼは8年休むと元に戻すのに30年か  
かるっていうじゃない。休耕田ってさ「田  
の穀」になっちゃうんだと僕は思うよ。恐

ろしいことだね。食糧難の時代がくるって  
言われているのにどうして生産を制限するん  
だろうね。

■日本の穀物自給率は先進国の中でも極端  
に低くて29%ぐらいって言われてますよね。  
原田 その点から考えても休耕田なんかは  
せずに、とんとん米を作るべきなんだよ。  
米価とか色々な問題はあろうけど……

今さ、世界では4億人くらいの人が飢え  
てるっていうんだよ。で、片やこちら側で  
は米を作りすぎて余ってるって。すごい食  
糧難の人がいるのならそれに対して何かし  
ようって風に考えられないのかね、官僚や  
政治家は。

■米をたくさん作っても、その有効な活用  
法はいくらでもあると。

原田 そう。そうやって使う税金は惜しく  
ないと僕は思うけどね。だって目の前に迫  
っているんだよ、その人達には。生きるか  
死ぬかかってことが、日本のように豊かな国  
っていうのは世界の中ではごく少数だよ。  
だけど、そのことを忘れてる日本人が多い。  
これはきつと地球規模で物事を考えるって  
いう習慣がないからなんだな、日本人に。

■もっとグローバルな視点を持って……

原田 うん。これからは自分が世界の一員  
としてどう生きてくかってことをきちんと  
考えなくちゃいけない時代になってくると  
思う。だから、グローバルな視点を持ち地  
球的な規模で物事を考えるってことがとて  
も大切になってくるんだな。

そして減反もそうだけど食糧問題って農  
村に直接関わってくる問題でしょ。だから  
農村の人もグローバルな視点でこれからの  
ことを考え、ほしいと思ってるんだ。農村発の「こ  
れから地球をこういう風にしていこう」っ  
ていう意見が出てきたら素晴らしいじゃない。





### ■農村発の地球規模の提案...

原田 うん。そういうことを、農村で親父やおふくろと一緒に田んぼ作ってる若い人が考えて欲しいよね。これから日本が世界の中でどうやって生きていくか。その答えは農村にあるような気が僕はするんだよね。

■どうして農村に？  
原田 だって人間がいかに生きていくべきかということとを教えてくれる自然の呼び声が一番近いところにいるわけだからね、農村の人は、自分の作ったものを食べながらそれを感じられる環境にあるわけだ。  
だからこそ僕は、意識革命は「農村」から始まるんじゃないかと思うんだ。

### 都市と田舎の交流を

■そのためには、今後農村のどんな点を改善していったら良いと思われませんか？

原田 僕個人としては、農村ってのは昔ながらの水田風景のまま変わらないのがいい、変わっちゃいけないと思ってるんだけど...。何といても日本人を形づくっているのはお米だからね。

でもそう言うと「だったら原田さん、あなたが自分でここにきて自分でやってみ

さいよ。手間ひまかかって大変なんじゃから」って農家の方に言われちゃうんだけど...。確かにその通りだね。

だったら国やJ/Aなどを中心にして、農村というものを基本的には変えずに、農業をやっている人がもっと楽できるように色んなことを便利にしていくような案を作っていく必要があるんじゃないかな。

例えば「農業やっている人は国家公務員」みたいなね。そうやって国がやらなきゃいけないこととして農業が位置づけられ、国がバックアップする国家的な事業としてやっていくってほしいよね。

■そうすると農業や農村はもっと活性化していくと思われませんか？

原田 そうだね。それともう一つ。もっと農村で米や野菜を作っている生産者と都会の消費者とが直接交流できるようになってほしいんじゃないの。

■都市に住む消費者には、田舎の生産者の姿って見えないですかね。

原田 今スーパーに行くと、佐々木さんちの大根とか中村さんちの人参とかあるでしょ。でも、あれはまやかしたよね。生産者の顔が見えるっていうのはそういうことじゃないって、生産者と消費者との間に実際に行き来があるってことなんだよ。

■具体的には何をやるんですか？

原田 都会の消費者に田舎に来てもらって、そこで米作りや野菜づくりなど農村体験みたいなのをしてもらうのはどう？

■そしてその呼び掛けを、農村の方から都会に向けて積極的にやってほしいんだ。

■農村から都会へですか？

原田 だって、都会に住んで農業に興味があったり実際にやってみたくて思っている人が全国の農村に向けて手紙を書き、自分

達に農業体験をさせてくれる所を一つひとつ探していくよりも、「この土地が空いていて、ここはこんな風に見えるけど誰かここでやってみないか」って、農村から都会に向けて情報発信してくれたほうが絶対に効率がいいもの。

それとね、都市と農村の交流が活発になって、都市の消費者の払っている価格が生産者に直接入るようになればいいのね。流通経済にえらいお金がかかる今の日本の経済システムは、確かに日本の経済発展には貢献してきたけれども、こと農業生産者に関しては還元されなさ過ぎてると思うもの。■都市で暮らしている人の農村体験ですか。

原田 そう。農業・農村体験といえは、官僚達も10年間働いたら1年くらい自然の中に研修に出るようになってほしいよね。そういう研修制度を作ったらどうだろうか。

■都会の生活や仕事を離れて田舎で野菜や米を作ったりして生活するの。隣で農家やつるおじさんやおばさん達に「何やってんだまったく、そんなことも出来ないのか」とか言われながらね。

■そうやって自然の中で研修して、人の暮らしってものがどう成り立っているのかってことを勉強すればいいんだよ。そうすれば日本ももっといい国になるんじゃないの。

■なるほど。それはユニークですね。

原田 結局、町も村もそれを作っていくのは「人」なんだよ。だから町づくりや村おこしは、まず人づくりから始めていかなきゃダメなんだよ。

■だって考えてもらえば、明治維新の時、長州人が活躍できたのはしつかりとした教育で人を育ててきたからでしょ。だから子どもの頃から自然を大切にしながら農村を愛するようになるように、ちゃんと教育を

してしつかり人を育てていかなきゃ。

■そう考えたら、農村発地球規模の提案で、山口県から「平成維新」が興いせるかもよ。

■もしもそれが出来たらすごいですよ。

原田 それとね、百姓という仕事はやっぱり才能だと思ってる。だから、やりたい人が誰でも出来る様なシステムにしていった方がいい。今は色々な規制があって新規で農業を始めるのってなかなか難しいでしょ。

■僕は、先祖伝来の...って都会に出たい人を無理につなぎとめておくよりも、農業をやりたいと思ってる人を招き入れた方が農村の活性化のためにはいいと思うんだ。そういうった面での規制緩和をすすめてほしいね。

■このところ世間では殺伐とした事件が続いてて、今はあまりよくない時代だと言われているよね。でも僕は、日本に「ふるさと」と呼べるものがある限りこの国は滅びないと思うんだよ。

■だからもっともっと、こういった情報誌で農村をPRして欲しいね。みんなの知らない、気付いていない農村のいいところをいっぱいね。

■今日はどうもありがとうございました。

1998年8月25日 東京都新宿区西台にて収録

profile

はらだだいじろう 1944年横浜生まれ、山口県育ち。県立熊毛南高校を経て明治大学法学部卒。テレビドラマ「Gメン75」でお茶の間の人気を獲得。以後映画、テレビ、舞台等で幅広く活躍中。また「いじめなんかじゃくたばるものか」を夫人規子氏と共著するなど文筆・講演活動も盛んで自作の絵画も各地で開催。現在、NHK朝のテレビ小説「やんちゃくれ」にレギュラー出演中。





# 先人たちの 大いなる遺産を訪ねる

エッセイ ①  
essay

## 阿知須町 江畑ため池

山口県農村整備課長 ● 齊藤 政満

text by Masamitsu SAITO

阿知須町の江畑ため池は、古い石張りの立派なため池である。

昭和6年の竣工であるから70年近く経っているが、貯水容量7万5千トンのため池は、今なお30ヘクタールの水田に恵みの水を供給している。

このため池は、当初明治22年に工事費3、508円をもって築造されたが、翌年の豪雨で堤防が決壊し、源田畑・河内に至る下流域に甚大な被害をもたらした。

この災害にも負けず、同24年、当時の徳田村長はため池の再建築を立て、関係議員の賛同を得て築堤しようとするが、水害を恐れる下流の住民の反対に遭い実現しなかった。

それから40年近くを経て、昭和3年から県が国庫補助の用排水改良事業により築造したのが現在のため池である。工事費は9万5、548円余り、この内4万4、621円が国庫補助、残りの5万1、000円余りが地元負担であった。

堤体の右岸側に大きな竣工記念碑がある。竣工後の昭和9年に建てられたものである。碑には事業経緯が詳細に刻まれており、最後に「耕地課長従五位勲五等武富憲時」とある。当時の知事の名前が上の方に記されているが、そのレイアウトからして、どうもこの碑の主役は耕地課長のようなのである。

県庁に耕地課ができたのは昭和5年であるので、武富課長は初代の耕地課長と思われる。いずれにせよ、昔の耕地課長は偉かったということであろう。





# どきどきハラハラ ズブズブズブ

小郡町立上郷小学校と山口県立山口農業高等学校



上郷小学校と山口農業高等学校では、ちよつとユニークな交流が行われています。

それは山口農業高等学校の発案で始まりました。学校農場の地域への開放で、豊かな教材を子どもたちに提供したいと山口農業高等学校が上郷小学校へ相談したところ、土と親しみ自然とふれあえることから上郷小学校の方でも大歓迎と、全校あげての交流が行われることとなりました。

両校の交流の内容は、各学年ごとに次の通りに行われています。

1年生	小動物とのふれあい	産産専攻生
2年生	ジャガイモの収穫	野菜専攻生
3年生	花壇の種まき	草花専攻生
4年生	鉢替え	
5年生	稲のバケツ栽培	作物専攻生
6年生	実習田で田植え	作物専攻生

六年 山縣 佐葉ちゃん



この交流では、農業高校の生徒が上郷小学校の児童に対して色々な指導や説明を行います。日頃学校では先生から教わる立場にいる生徒たちですが、この交流では教える立場に立つという、ちよつと変わった楽しい交流となっています。



一年 ふじい しんべいくん





## いきいき高校生

### 山口県立山口農高

山口県立山口農高は、平成18年創立の前身十一年、山口県立山口農高として創立された。本校は、農業の発展と地域の活性化を目的として、実践的な教育と職業教育を重視し、特色ある教育を実施している。本校は、農業の発展と地域の活性化を目的として、実践的な教育と職業教育を重視し、特色ある教育を実施している。

## 広く地域に農場開放



### 小学生と交流 専攻別に指導

本校は、地域に開放した農場を積極的に活用し、小学生と交流し、専攻別に指導を行っている。これは、地域に開放した農場を積極的に活用し、小学生と交流し、専攻別に指導を行っている。これは、地域に開放した農場を積極的に活用し、小学生と交流し、専攻別に指導を行っている。



もってかえったら、大きなじゃがいもを見て、お母さんはびっくりしていました。きょうは、こふきいもをつくらせて食べました。

2年 福本 彩香ちゃん

田んぼに入ってみると、しずんでいく。うわっしずむー、全身がはいるよーと思っていたら、下に何かがあってしずんでいくのかピタッととまった。

6年 沖村 綾ちゃん

おにいさんへ、おねえさんへ  
いっばいどうぶつのこと、おしえてくれてありがとう。また、いつかいっばいあそぼうね。たのしかった。

1年 しまだ まりんちゃん

とても楽しい田植えでした。こんどは、稲刈りが楽しみです。初めて田んぼに入って、すごく楽しかったです。

6年 佐々木 亜由美ちゃん



## 雨ニ毛負ケズ風ニ毛負ケズ 梅雨や台風ニ毛負ケズ

平成10年もたわわに実りました

### 田んぼは地球人の宝だ！

秋。さわやかな風にこうべを垂れたなびく稲穂。コシヒカリ、ヤマヒカリそして晴るる等々。実りました、たくさんのおいしいお米。さっと次の秋もそして次の秋も。なんて具合にいくのでしょうか？

日本の水稲のように、何千年、という長きにわたって主食となる作物を支らせてきた農業は、世界中にほんのわずかしかなかった。例えば、ヨーロッパ地方の「三圃式農業」や熱帯雨林地帯に残る「焼畑農業」がそれにあたります。

焼畑は水田よりずっとずっと先駆になりましたが、最近では森林の乱開発や人口の爆発的増加に伴ってその姿を減らしつつあります。もちろん、焼畑そのものに矛盾があったわけではなく、人間がそのまわりに矛盾を作り出したと言うのが正しいでしょう。だって焼畑は、数千年も前から続いていた農法なのです。

水田はたくさんのお水を必要とするので、アジア・モンスーン地帯を中心に栽培されてきました。そして、「お米を食べる」という食文化もこの地に根付いたわけです。

ちなみにみなさんにお馴染みのおいしいカリフォルニア米・ローズは、アジア・モンスーン地帯とは別の地域で栽培されていますが、降雨量の少ないカリフォルニア州サクラメント地方でお米を作るには、長い水路と耕作する人たちの大変な努力が必要だったのです。

その昔、遠くアメリカで水田を始めた田んぼの人は、お米の栽培にとっても適した日本でお米が消費されてゆくのを見ておられるのでしょうか。人間にとつてかけがえのない宝が消費されてゆくよう



を痛めてらっしゃるに違いありません。見慣れているものこそ、本当に宝なのです。

## 日本で食べ物を作ろう！

日本の食料自給率は、カロリーベースで42%です。

カロリーベースとは、「国民1人1日当たりの国内供給熱量」を「国民1人1日当たりの供給熱量」で割ったものなので、肉用牛や乳牛が食べている輸入飼料も含まれていることを考えると、実質的な食料自給率はもっと低いものだといえます。このため、主食を含む穀物自給率の方が実質的な食糧自給の数字を不十分だとされています。

欧米の先進国はおおむね100%をこえる穀物自給率を維持し、国内の経済状態がどのようになっても自分たちが食べていく分は自国で確保しています。まあ、当然といえは当然のことなのですが……。一方我が国ではお米こそ102%とわずかに100%を超えて自給されていますが、大豆や小麦といった穀物はほとんどアメリカに頼っています。

日本が「経済大国」などと呼ばれていたのはもうすでに過去のことです。アメリカがだつて2010年〜2020年には食料輸入国に転じると言われています。

つまり、食べ物を自分たちで作っていない限り、私たちの明日の敵は「飢饉」となるのです。

## 食料不足。

## それは他人事ではない！

アジア先進国の一角を成す朝鮮民主主義人民共和国では、95年・96年の大水害を契機に食料危機に直面しています。

現在、朝鮮民主主義人民共和国と我が国は国交すらままならない関係にあるので、その様子は一般の書店で販売されている書籍やテレビのニュースで垣間見ることしかできませんが、既に国民の1割が飢饉を原因に死亡したと伝えられています。

私たちの国・日本は大丈夫でしょうか。地球上で人口が爆発的に増加している今日、海外に依存している食糧をこれからも日本へ輸入し続けられる保証は何もありません。そして荒れ地がすぐに農地には変わらないことも、作物を作っておられる方はご存じのほうです。

農業をもっと大事にしましょう。私たちが生きていく「礎」がきつとここにあるのです。出かけましょう。鎌を手を持ち。耕しましょう。みどりの大地を。実りの日までに流したその汗の一滴が明日の日本を守るにちががありません。

## 田んぼを守る！ 災害

その昔、田んぼは生活の糧だったので、耕作する人々によって大切に守られてきました。国民の大半がサラリーマン化した今日では、農業を生活の糧とする人々は少なくなりましたが、田んぼは今でもその重要性を鑑み手厚く保護されています。

田畑は土で出来ているので、大雨や川の氾濫といった災害にあうとあっという間に飲み込まれてその機能を失ってしまいます。そして、災害の後にすぐに復旧を施さなければ、田畑はその地力を失い、数十年、数百年かけてやっと完成した元の姿に戻すのは非常に困難となるのです。

また田畑は基本的に私有財産ですが、その効力は国土保全から食料生産に至るまで

広範多岐にわたり、耕作を営まない人たちの生活にも大きく貢献しているため、災害時にはその復旧に税金が投入されます。

特に田んぼには降った雨を地面に浸透させる涵養作用や一時的に多量の水を貯水する機能があり洪水調整を行っているのです。その復旧は急を要します。

大雨の降った直後、地元の農家の方々に加え役場や市役所のみなさんが、被害状況を時には命をかけて続々と把握し、復旧に向けて急ピッチの作業が行われるのはこのためです。

被害をうけた田んぼがそのまま放置されていると、再び大雨が降った時に周辺や下流の家屋は流されかねません。このため工事費を確保する人、工法を検討する人、工事をする人など復旧作業に携わる人たちは力を合わせ、比較的大きな被害であっても3年以内に復旧を終えて新たな災害に備えます。

今、食卓においしそうに並んでいるご飯やおかずは、日本人がこうしたたゆまぬ営みを2千年も続けた努力の産物です。

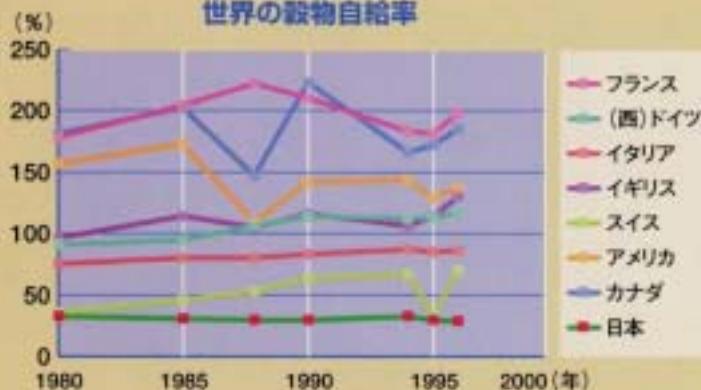
米まで輸入を始めてしまったら、その間に私たちは日本人としてのアイデンティティと明日の生活を失ってしまうのです。



## グラフでみる食物自給率



## 世界の穀物自給率





## 食卓レポート①

山口市・郊外大型スーパー店調べ

# 私たちの食べものは、 どこから来ているの？

朝、昼、晩と食卓に並び、毎日のように私たちが口にしている野菜ですが、その生産地は意外と知られていないものです。

スーパーなどのお店に並んでいる野菜たちはいったいどこで育ったものなのでしょうか。「のんた」調査班では、その普段は特に意識していない野菜たちのルーツをちよっとさぐってみました。



## 献立 MENU

- ・ 酢豚
- ・ 焼きなす
- ・ ほうれん草のごまあえ
- ・ きんぴらごぼう
- ・ かほちゃの味噌汁
- ・ ごはん

# Q クイズ UIZ

## なんの 野菜かな？

A・Dの写真は、すべて皆さんがよくご存知の野菜です。それぞれどんな野菜か当ててください。

(答えは4つとも左ページのイラストの中にありますヨ)



A



B



# 結果報告

report

1

食材  
にんじん(酢豚)  
生産地  
青森県・北海道



食材  
たまねぎ(酢豚)  
生産地  
不明



食材  
ピーマン(酢豚)  
生産地  
防府市・徳地町



食材  
しいたけ(酢豚)  
生産地  
大分県



食材  
たけのこ(酢豚)  
生産地  
大分県



食材  
きゅうり(酢豚)  
生産地  
熊本県・宮崎県



食材  
なすび(焼きなす)  
生産地  
福岡県・大分県



食材  
しょうが(焼きなす)  
生産地  
高知県



食材  
かぼちゃ(みそ汁)  
生産地  
北海道



食材  
ごぼう(きんぴら)  
生産地  
宮崎県



食材  
ごま(ごまあえ)  
生産地  
愛知県



● 締切り  
5月31日(月) 消印有効

山口市糸米2-13-35  
山口県土地改良事業団体連合会内  
山口県地球人会議  
「のんた」創刊号クイズ係

● あて先  
〒753-10079  
Dをプレゼントいたします。

● 応募要項  
ハガキに、①クイズの答え②郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号③「のんた」に対する感想・ご意見などの順に書いて、左記のあて先へお送りください。正解者の中から抽選で20名様に地球人会議のオリジナルテレホンカードをプレゼントいたします。



D



C



# わたしのアドベンチャー 体験日記

in underground kingdom  
MIKAWA MU BALLEY  
美川ムーバレー

山口市在住の村田さん一家が美川町でいろいろな体験をされました。  
そのようすを長女のあいなちゃん(小学2年生)が  
日記に書いてくれました。

山口県東部を流れる清流錦川。その支流、根笠川渓谷に広がる「美川ムーバレー」は、旧玖珂越山の跡地を利用して作られたテーマパークです。

園内には、鉱窟を利用して再現された地底王国「ムー王国」をはじめ、砂金採り体験のできる「ムーの滝」、そば打ちや木工細工などの体験ができる体験工房や活性石温泉を備えた宿泊施設・農林漁業体験実習館などアトラクションが満載。

ファミリーで1日たっぷり楽しめます。

8月30日(日) 天気 はれ

●午前8時

わたしが一番さいしょにおきました。そのあとおかあさんと、まりながおき、最後にパパがおきました。わたしはおかあさんの手伝いをしました。パパはクルマをきれいにしていました。8時30分に家をでました。今日行くのは「みかわムーバレー」だとパパが言ってました。なんかセーラーूमみたい名前前たなくと思いました。

●午前10時

「こっそく道路をとおって、川のそばを走って「みかわムーバレー」につきました。クルマをおけると、目の前に大きな橋がありました。空な音楽がながれていて、わたしはちょっとこわいかんがえました。

さいしょに大きな橋をわたりました。とっても高くて上がるのがきつかったけど、橋の上からみえるけしきは山と川と道路が見えて、とってもきれいでした。

橋をわたってから、また坂がありました。まりなはパパにたづねられていました。



坂の上にてい王国の入口がありました。わたしはちょっとこわい感じがしたけど、がんばって中に入りました。まっくらで最初はよく見えなかつたけど、だんだん見えるようになりました。中はすすしかったです。まりなはこわがって泣いていました。

トンネルをとおっていくと、へんなぞうがありました。そこにお金がおちていました。おかあさんが、頭がよくなるようにといて、そのぞうのあたまのところにお金をひっつけていました。次にいけたいながありました。さいしょはよく見えなかつたけど、パパが「きれいな水」といったので、よく見ていると、とってもきれいな水が見えました。出口のところは、坂になっていて走っておりました。でも、こけぞうでちょっとこわかったです。

●午前11時

しらない人たちと、そばをつくりました。わたしはそばがすきたけど、つくるのははじめてでした。そばがまんじゅうみたいでびっくりしました。ねんとみたくて、固くてうまくつくれませんでした。パパもへんなのしかつくれませんでした。そのあと、そばをたへました。おいしかったです。

●午後1時

川の中でさきんとりをしました。さいしょはよくわからなかつたけど、おじさんに教えてもらいました。さらにすなを入れてまわしました。最後にさらに金がひっついていました。それを水のはいたいれものに入れました。自分ひとりでやったら、なかなかうまくいきませんでした。でも最後にとれるようになって、ぜんぶで5ことれました。うれしかったです。

●午後2時

お風呂にいきました。おおきなお風呂でした。私はおかあさんとはいりました。まりなはパパとふたりで入りました。きもちよかったです。

●午後3時

みかわムーバレーをでて、大きなすいしゃを見にいきました。クルマをおりて坂をあがっていきました。まりなはまだパパにたづねられていました。わたしはおかあさんときょうそうしました。いちばんになりました。すいしゃはとても大きくてびっくりしました。あんな大きなのが、なんでうごいているのかふしきでした。それからかえりました。今日はとっても楽しかったです。





## 家族みんなの感想

おとうさん 35歳

自然の中にこんなに立派な施設があるとはビックリ。1日いても飽きません。坂道が多いのがたまに傷かな。今度行ったときはバーベキューを食べたいと思いました。

おかあさん 29歳

子供たちが楽しそうにしているのがなにより一番よかったです。お風呂があるので是非入って帰って下さい。食べるところがたくさんあるのもうれしかったです。田舎はやっばりいいですね。

私(あいな) 小学2年生

楽しかったです。地底王国は暗くて、本当は怖かったけど、最後はなれて楽しかったです。

砂金とりはきつかったです、おもしろかったです。そばもビックリしました。

まりな 4歳

かさ水がおもしろかったです。お風呂があんまり熱くなくてよかったです。またいきたいです。



村田さん一家

ワンポイントアドバイス

おとうさんから一言



中国自動車道の六日市ICで高速道路を下りてから「美川ムーバレー」までの道は、細かく誘導看板が出ているので迷うことはないと思いますが、「美川ムーバレー」の近くになると道幅が細く融合するのが大変な箇所もあるので飛ばしすぎには注意しましょう。また、「美川ムーバレー」の手前にある川はとってまきれいなので、時間に余裕があればそこで川遊びをするのも楽しいと思います。

地底王国の中は思った以上にひんやりしています。上着を一枚用意していくことをお勧めします。また結構歩くことになりしますので、靴ははき慣れたものの方がいいでしょう。

園内には、レストラン、ファーストフード、バーベキューなど食事する場所がたくさんあります。お腹のすき具合や予算にあわせて選ぶことができるので便利です。

お風呂は天然の温泉ではないものの、こじんまりとしていてのんびり入浴できます。タオルはその場で購入できます。

「美川ムーバレー」内の農林漁業体験学習館では、そば打ちやこんにやく作り、木工細工など体験工房でいろいろなイベントを開催しています。但し、体験工房はいつもやっているわけではないので要注意。事前に電話で体験工房で開催されているイベントの内容を確認していくと色々楽しめますよと思います。

## INFORMATION



### ●交通

中国自動車道六日市ICから車で約30分  
山陽自動車道岩国ICから車で約30分  
錦川清流線根笠駅下車後可営バスで約7分

### ●利用施設のご案内

- 地底王国** 10:00~17:00(季節により変更)  
大人1,000円、中高生700円、小人(4歳~)500円
- 砂金採り** 10:00~16:30(3月~11月)  
700円(30分・体験記念カード付)
- 体験工房** 10:00~15:00(要予約・20名以上)  
700円~1,000円程度(60分)
- 清性石温泉** 10:00~16:30  
大人400円、小人300円(2階の休憩室利用料を含む)
- センターハウス** (宿泊施設・和室全9室・45人収容)  
7,500円~ (1泊2食付)

## 美川ムーバレー

〒740-0505 玖珂郡美川町大字根笠 TEL 0827-77-0111

次回の体験をお楽しみに!

- |             |            |             |
|-------------|------------|-------------|
| 1 センターハウス   | 7 花木園      | 13 お弁当広場    |
| 2 ふれあい広場    | 8 洞窟神社     | 14 滝の池      |
| 3 であい・ふれあい橋 | 9 地底王国入口   | 15 パザール     |
| 4 地底農園      | 10 ムーの滝    | 16 プラザ売店    |
| 5 せせらぎ売店    | 11 地底王国出口  | 17 ムーショップ   |
| 6 せせらぎの遊び場  | 12 地底ホール入口 | 18 バーベキュー広場 |



美川ムーバレー



# のんたP<sup>h</sup>oto column ①



(撮影・宇部市 松永 常男さん)

むせ返るような青草の草いきれ。

足の裏に伝わる柔らかな土の感触、

風に揺れる稲穂のさざめき。

れんげ、たんぼほ、えのころ草。

バッタ、カマキリ、モンシロチョウ。

幼かったあの頃、

豊かな自然の交響曲は

いつも私たちの身近にあった。

深呼吸、ひとつ。

目を閉じて、いっしか

遠く彼方へと消え去っていった

懐かしい情景の数々を拾い集める。

自然とともに過ごし、

たまらないくらい幸福だった

あの頃の記憶を気持ちの奥底から

呼び覚ますために。

発行

食料・環境・ふるさとを考える

山口県地球人会議 事務局

〒753-0079 山口県山口市兼米2丁目13番35号 山口県土地改良事業団体連合会内  
TEL0839-33-0035 FAX0839-33-0048